アステープの実力を検証
KBS京都が取材 6日放映
オーバーレイ工法へ新しい提案

京都商工会議所が主催した『第3回知恵ビジネスプランコンテスト』で認定プランに㈱石川建設（石川英明代表取締役／伏見区深草）の《アステープ》が選ばれた。今までのオーバーレイ工法と比べ、火気を必要とせず約半分の時間で復旧作業を終えるという。

先月29日、京都商工会議所の知恵産業推進室の窪田裕幸室長や担当の足利健淳主幹、林久美氏らが見守る中、KBS京都の『まもなく京bizS』が、その効果を検証するため取材に訪れた。担当のキャスター竹内弘一記者がレポート。実際に従来の工法と新工法を同時施工し、その作業効率を確認した。

アスファルト舗装の表面補修工事『オーバーレイ』は、アスファルト原液接着剤を現場でガスバーナー等の火気を使用し加熱、溶融させる必要がある。新工法では、この工程が無く、直ちに作業に入れる。アスファルト原液剤の代わりに特殊な粘着テープで舗装面をつなぐ。一般的な両面テープと同様に貼って剥がすという簡易な作業。舗装面の隅々をこのテープで囲むように施すことで、これまでの不安定な接着剤の密度も一定の厚みと幅を確保でき、より一層の強度を得ることに繋がったという。

この日の取材でも両工法を同時施工したものの、従来工法ではアスファルト原液接着剤の加熱に約20分。マスキング等作業で完工するまで約1時間かかった。一方、新工法では、約30分で施工を終了する結果となった。

KBS京都の番組取材で石川社長は、これまでの経緯について「構想から約8年。実際に現場に立ちアナログの作業と効率の悪さをなんとかしようと発想。特許申請が7年前。昨年12月17日付けでようやく取得（舗装用両面粘着テープ及び舗装方法／特許第4647995号）できました。アイデアを具現化する作業が大変困難で、粘着テープに関しては全くの素人。いろんな方にお願いしたのですが、それはできないですよというのが殆どでした。そんな中、樹脂粘着剤を開発し幅広く展開しておられたのが、㈱アジア粘着商会（大阪市天王寺区）の田中克昌社長でした」と説明した。

また田中社長も「石川社長の構想をはじめてお聞きした時、もう既に特許を取っているのにと思いました。この商品というのが一個人、一企業の利益を追求するのではなく、社会に貢献するものであり、工事に携わっている関係者の方々が、楽に安全に安く早く作業できるもので、非常に良いものだと理解するとともに、全面的に協力し、新たな開発・研究がスタートすることになりました」とアステープの商品化への第一歩を語った。

先に行われた京都商工会議所の知恵ビジネスプランコンテストは、今年3回目。認定されたアステープの特徴は、火気を扱わないことで火災事故や作業員の火傷などの大きな危険がなくなるとともに、火気を嫌う工場等での施工も可能となった。これまで舗装表面の点々補修工事は、現場への移動の度にアスファルト原液接着剤を加熱し施工にあたっていたのに対し、アステープは加熱・溶融もなしに施工でき速やかに移動が可能となった。これらの結果、施工効率など大幅に向上でき、安く・早く・安全が現実のものとなった。併せてアスファルト接着剤等の一斗缶の廃棄物やマスキングで出るごみなども解消できた。

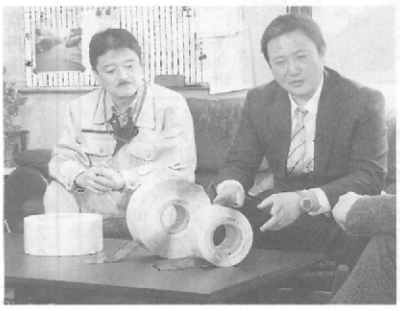
なお、今後は信頼できる代理店を募り、全国に販売網を広げていく予定で、既にいくつかの建設会社や資材関係の会社からオファーがあるという。

KBS京都の『まもなく京bizS』の放送は4月6日午後9時30分から放映される予定だ。

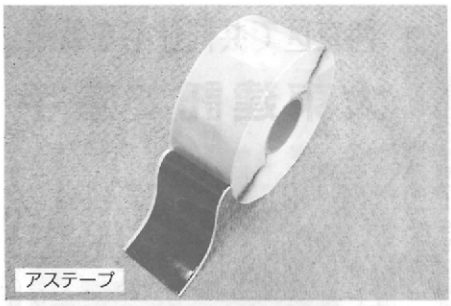
同時にスタート。アステープはほぼ完了

インタビューに答える石川社長

田中社長


開発の思いを語る石川社長（右）と田中社長（左）

取材を見守る関係者


アステープ

お問い合わせは㈱石川建設
（TEL075・641・2384）まで
URL　http://www.ishikawakensetsu.jp/

知恵ビジネスプランコンテスト認定！！
常識を覆す「火気を使わない」工法で新たなニーズを吸収
アステープ
代理店募集中！！
㈱石川建設
京都市伏見区深草小久保町303
TEL 075-641-2384　FAX 075-645-2459